

平成 29 年食中毒発生状況の概要について

平成 30 年 7 月
厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課

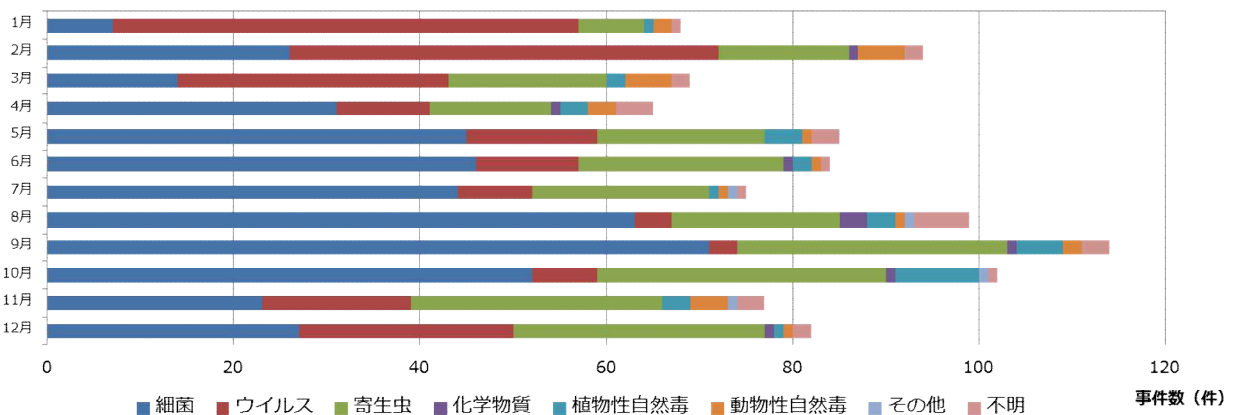
1. 発生状況（事件数, 患者数, 死者数）

○平成 29 年に国内で発生した食中毒事件数は 1,014 件（対前年－125 件）, 患者数 16,464 人（対前年－3,788 人）, 死者数 3 人（前年比－11 人）であった。
○そのうち, 患者 2 人以上事例は、745 件（対前年-211 件）, 患者数 16,195 名（対前年-3,874 名）であり、全体の事件数の 73.5%、全体の患者数の 98.4%を占めていた。
○患者 500 人以上の食中毒は 2 件発生した（前年は 2 件）。

2. 月別発生状況

食中毒事件の発生が最も多かった月は、9月の 114 件（11.2%）で、次いで 10 月の 102 件（10.1%）, 8月の 99 件（9.8%）の順であった。患者数では、2月の 2,770 人（16.8%）, 1月の 2,247 人（13.6%）, 12月の 1,647 人（10.0%）の順で多かった。

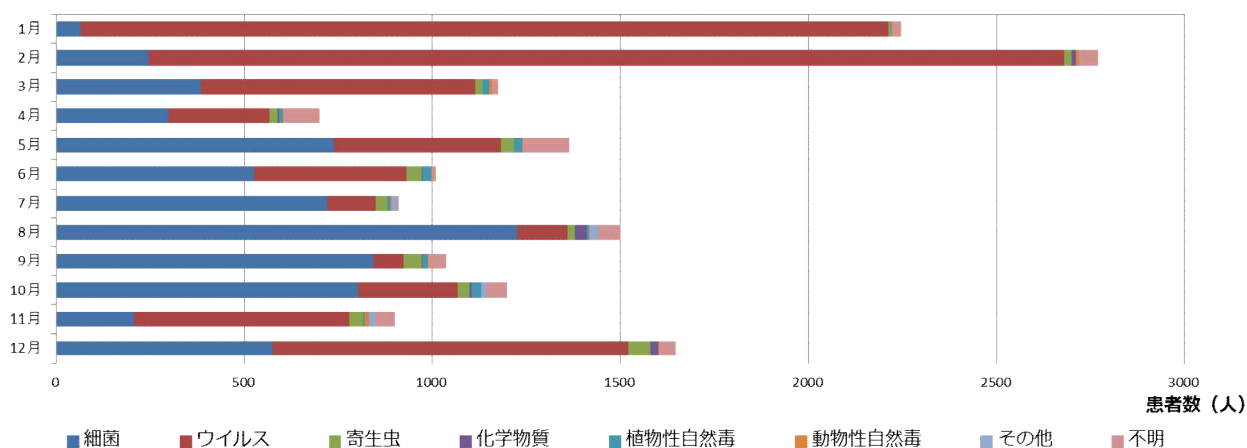
平成29年病因物質別の月別発生状況（事件数）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	7	26	14	31	45	46	44	63	71	52	23	27
ウイルス	50	46	29	10	14	11	8	4	3	7	16	23
寄生虫	7	14	17	13	18	22	19	18	29	31	27	27
化学物質	0	1	0	1	0	1	0	3	1	1	0	1
植物性自然毒	1	0	2	3	4	2	1	3	5	9	3	1
動物性自然毒	2	5	5	3	1	1	1	1	2	0	4	1
その他	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0
不明	1	2	2	4	3	1	1	6	3	1	3	2

図 1：平成 29 年月別発生状況（事件数）

平成29年病因物質別の月別発生状況（患者数）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	63	244	383	298	738	526	720	1,225	842	802	206	574
ウイルス	2,148	2,434	730	269	444	405	128	134	80	264	573	946
寄生虫	7	20	19	21	34	41	32	19	49	32	36	58
化学物質	0	12	0	3	0	1	0	31	2	5	0	22
植物性自然毒	2	0	18	10	21	24	8	7	13	25	5	1
動物性自然毒	2	7	8	3	2	1	3	1	3	0	11	1
その他	0	0	0	0	0	0	14	23	0	15	17	0
不明	25	53	18	97	126	13	5	60	49	55	53	45

図 2：平成 29 年月別発生状況（患者数）

3. 病因物質別発生状況

- 病因物質別の事件数を見ると、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（320 件, 31.6%），アニサキス（230 件, 22.7%），ノロウイルス（214 件, 21.1%）の順で多かった。また、病因物質別の患者数は、ノロウイルス（8,496 人, 51.6%），カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（2,315 人, 14.1%），ウエルシュ菌（1,220 人, 7.4%）の順で多かった（図 3, 4）。
- そのうち、2 人以上の事例の病因物質別の事件数を見ると、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（307 件, 41.2%），ノロウイルス（214 件, 28.7%），サルモネラ属菌（33 件, 4.4%）の順で多かった。また、2 人以上の事例の病因物質別の患者数は、ノロウイルス（8,496 人, 52.5%），カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（2,302 人, 14.2%），ウエルシュ菌（1,220 人, 7.5%）の順で多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数 17 件（1.7%），患者数 168 人（1.0%），死者 1 人で、血清型は O157（VT2）によるものであった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、ノロウイルス（平成 9 年に病因物質としてノロウイルス（当初は小型球形ウイルス）を追加）とカンピロバクターにおいて事件数及び患者数共に高い値で推移している。
- 平成 25 年 1 月より寄生虫（クドア、サルコシスティス、アニサキス、その他寄生虫）についても食中毒事件票に病因物質種別として追加した。それぞれの病因物質による事件数と患者数は、クドアが 12 件 126 人、サルコシスティスが 0 件、アニサキスが 230 件 242 人であった。

全体の食中毒事件数の年次推移

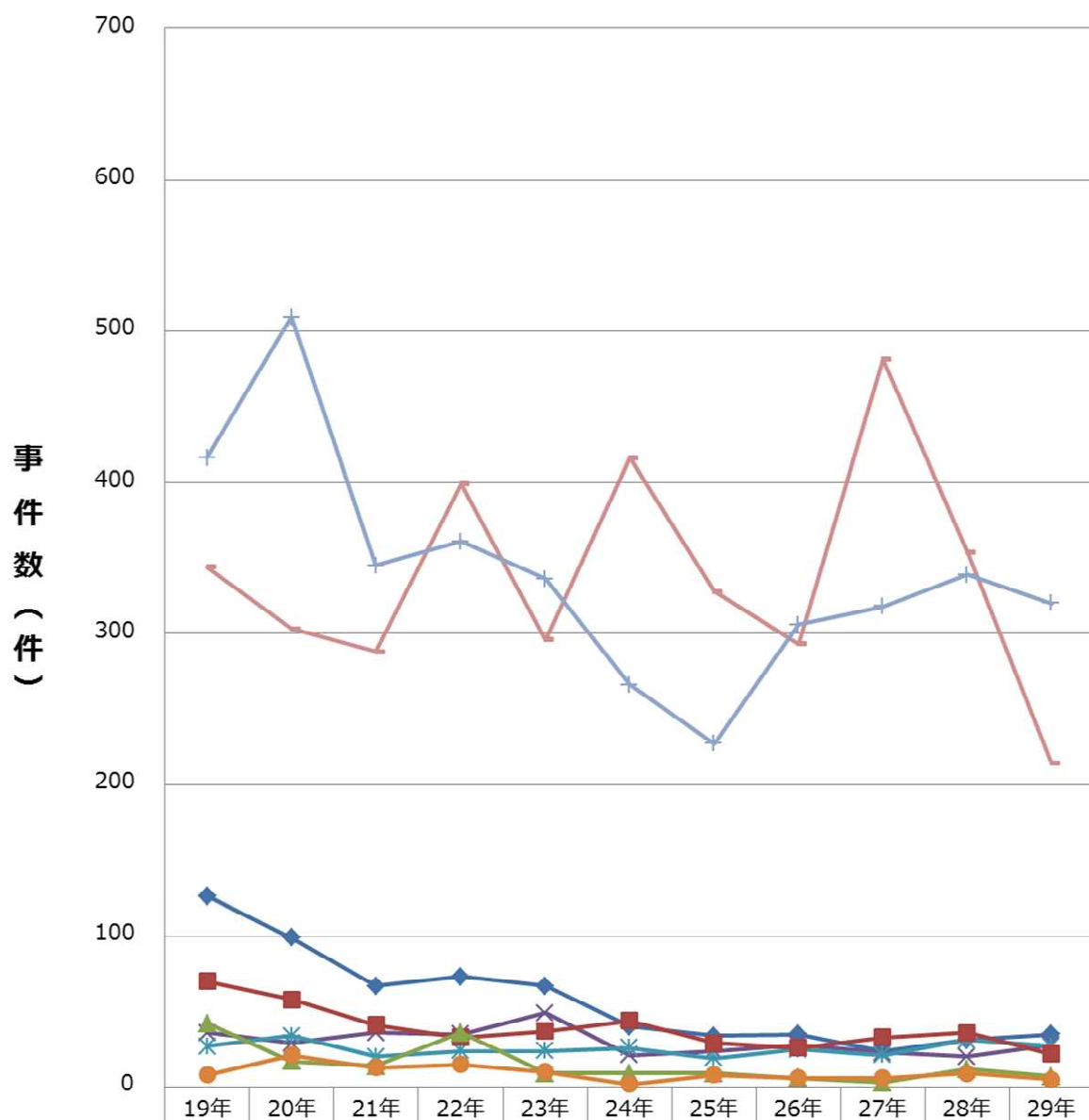
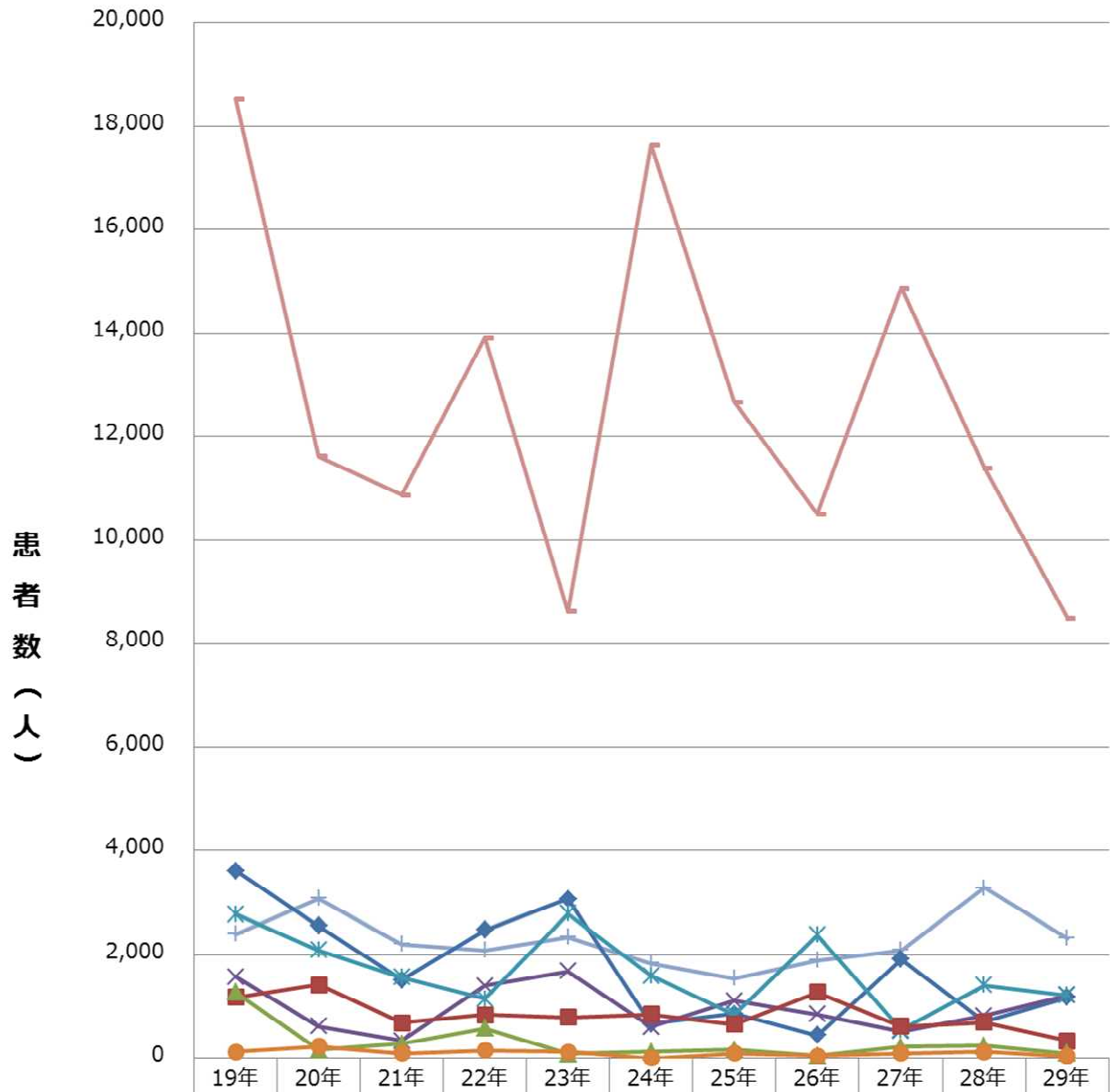


図 3：平成 19～29 年食中毒事件数推移

*腸管出血性大腸菌を含む。

全体の食中毒患者数の年次推移



ノロウイルス	18,520	11,618	10,874	13,904	8,619	17,632	12,672	10,506	14,876	11,397	8,496
カンピロバクター	2,396	3,071	2,206	2,092	2,341	1,834	1,551	1,893	2,089	3,272	2,315
サルモネラ属菌	3,603	2,551	1,518	2,476	3,068	670	861	440	1,918	704	1,183
病原大腸菌*	1,576	616	341	1,406	1,681	611	1,112	847	518	821	1,214
ウエルシュ菌	2,772	2,088	1,566	1,151	2,784	1,597	854	2,373	551	1,411	1,220
ぶどう球菌	1,181	1,424	690	836	792	854	654	1,277	619	698	336
腸炎ビブリオ	1,278	168	280	579	87	124	164	47	224	240	97
セレウス菌	124	230	99	155	122	4	98	44	95	125	38

図4：平成19～29年食中毒患者数推移

*腸管出血性大腸菌を含む。

4. 原因食品・施設別発生状況

- 原因食品の判明したものは, 事件数 871 件(85.9%), 患者数 15,241 人(92.6%) であった。
- 原因食品別の事件数を見ると, 魚介類(196 件, 19.3%), 肉類及びその加工品(61 件, 6.0%), 複合調理食品(51 件, 5.0%) の順が多かった(「その他」を除く。以下この項において同じ。)。また, 原因食品別の患者数は, 複合調理食品(1,546 人, 9.4%), 次いで肉類及びその加工品(638 人, 3.9%), 魚介類(469 人, 2.8%) の順が多かった。
- そのうち, 2 人以上の事例における原因食品別の事件数見ると, 肉類及びその加工品(61 件, 8.2%), 複合調理食品(47 件, 6.3%), 魚介類(39 件, 5.2%) の順が多かった。また, 2 人以上事例における原因食品別の患者数は, 複合調理食品(1,542 名, 9.5%), 肉類及びその加工品(638 名, 3.9%), 魚介類(312 名, 1.9%) の順が多かった。
- 原因施設の判明したものは, 事件数 897 件(88.5%), 患者数 15,942 人(96.8%) であった。
- 原因施設別の事件数を見ると, 飲食店(598 件, 59.0%) に次いで家庭(100 件, 9.9%), 販売店(48 件, 4.7%) の順が多かった。また, 原因施設別の患者数は, 飲食店(8,007 人, 48.6%), 学校(2,675 人, 16.2%), 旅館(1,852 人, 11.2%) の順が多かった。
- そのうち, 2 人以上の事例における原因施設別の事件数を見ると, 飲食店(515 件, 69.1%), 旅館(39 件, 5.2%), 仕出屋(37 件, 5.0%) の順が多かった。また 2 人以上の事例における原因施設別の患者数を見ると, 飲食店(7,924 人, 48.9%), 学校(2,675 人, 16.5%), 旅館(1,852 人, 11.4%) の順が多かった。

5. その他

平成 29 年食中毒発生状況の詳細等については, 厚生労働省医薬・生活衛生局ホームページ「食中毒に関する情報」(<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/>) で公開している。

患者数500人以上の事例(平成29年)

	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設 種別	原因食品名	病因物質種別	患者総数	死者総数	摂食者総数
1	和歌山県	2017/1/26	学校-給食施設- 共同調理場	磯和え(学校給食)	ノロウイルス	763	0	2,062
2	東京都	2017/2/16	学校-給食施設- 共同調理場	きざみのり	ノロウイルス	1,084	0	3,078

死者が発生した食中毒事例(平成29年)

	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設種別	原因食品名	病因物質種別	患者総数	死者総数	摂食者総数	死者年齢
1	足立区	2017/2/19	家庭	蜂蜜	細菌-ボツリヌス菌	1	1	1	男:0歳
2	北海道	2017/5/11	家庭	イヌサフラン	自然毒-植物性自然 毒	3	1	3	女:70歳～
3	前橋市	2017/8/13	飲食店	不明(平成29年8 月11日に調理・販 売された食品)	細菌-腸管出血性大 腸菌(VT産生)	11	1	40	女:1～4歳

※摂食者数については、保健所が探知した人数であり、必ずしも原因食品を喫食した総数ではない場合がある。